

## コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表

西部コミュニティ協議会

### ① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

<p><b>利</b>用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】体育室をより利用しやすくするため、予約可能人数の変更を検討している。</p> <p>【工夫している点】予約可能人数の変更による有効性を検証するため、試験運用を行った。</p>
<p><b>新</b>しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】今後の課題として、地域の子どもの利用増加が挙げられる。桜野小学校は900人を超える大規模校であるため、そうした地域の子どもたちが利用しやすい環境づくりが必要である点が課題として認識されている。</p>
<p><b>施</b>設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】体育室利用時の熱中症対策として、隣接する部屋を涼しくし、休憩場所として開放している。</p>
<p><b>情</b>報の提供</p>	<p>【現状】協議会公式のアカウントを作成し、SNSと広報紙等、多様な方法で情報を発信している。</p> <p>【工夫している点】SNSでの情報発信は地域情報をタイムリーにお知らせできている。</p> <p>【特筆すべき成果】SNSを通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とつながりが生まれている。</p>

## ② 地域におけるネットワーク機能

<p><b>利</b>用者・利用団体 とコミセンとのつ ながりづくり</p>	<p>【現状】 コミセンまつり・文化祭は利用団体が一同に会する機会であり、利用団体の交流が生まれ、顔の見える関係性の構築につながっている。</p> <p>【工夫している点】 近年では文化祭に出展・出演するサークルの数が減少していたが、サークルの展示・発表の場だけではなく、はんこ作りや絵葉書作りといった参加・体験型イベントを企画するなどの工夫を行った。これによって、地域住民の参加も増えている。</p>
<p><b>地</b>域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】 地域防災については、桜野地域防災ネットワークがあり、コミセンもそのメンバーになっている。桜野小学校の避難所運営組織とも連携体制を構築している。</p>

## ③ 持続可能な協議会の運営

<p><b>運</b>営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】 運営委員を対象として研修会を開催した。</p> <p>【工夫している点】 講師を招き「地域活動を活性化するための話し合いのコツを学ぶ」をテーマとした学びの場を設けた。</p>
<p><b>持</b>続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】 「ちびっこ運動会」という未就学児を対象とした運動会を開催している。</p> <p>【工夫している点】 市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」を活用し、中高生のボランティア協力を得ている。また、近隣の小学生や大学生等にも協力を呼びかけ、多くの方の協力を得ながら事業を実施している。</p>
<p><b>活</b>発な協議会運営</p>	<p>【現状】 若い世代の運営委員が増加している。</p> <p>【工夫している点】 若い世代の運営委員が増えたことで、働いている人や専業主婦などライフスタイルがそれぞれ大きく異なるメンバー構成になっている。そこで、協議会の定例会は、月ごとに午前の時間（子育て中の方も参加可能な時間）と夜間の時間（働いている人も参加可能な時間）を交互に開催するなどの工夫を行っている。</p>